

ユニセフ T・NET 通信

2014 WINTER

No.56

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

5歳の誕生日を迎えられない子どもたち

「子どもの生存を守る：あの約束を再び」からの報告



©UNICEF/NYHQ2012-2093/Noah Friedman-Rudovsky

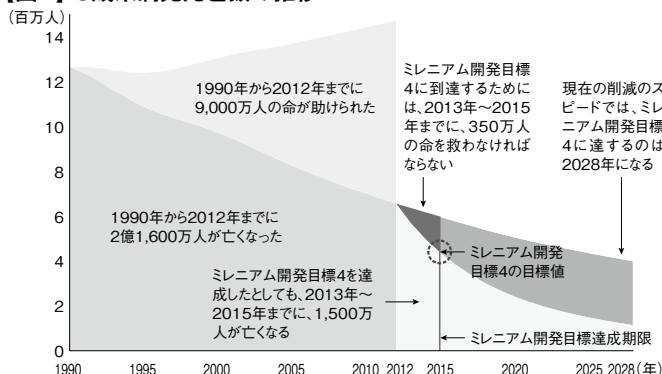
世界では5歳の誕生日を迎える前に、1年間で約660万人の子どもたちが亡くなっています。それは、1日当たり約18,000人。約4.8秒に1人が亡くなっていることになります。亡くなる主要な原因は、風邪をこじらせた肺炎、下痢による脱水症、マラリアといった病気で、1年で約220万人と、5歳未満児死亡数の約3分の1を占めています。

2013年9月、ユニセフは『子どもの生存を守る：あの約束を再び (2013年度版)』を発行しました。世界の5歳未満児死亡数および、1990年以降の5歳未満児死亡率の傾向や原因の分析、生存のための取り組みに関する最新の推計値を、本報告書で発表しました。

・ 進歩が見られる5歳未満児死亡数と死亡率 ・

国連ミレニアム開発目標の基準の年にあたる1990年、世界では5歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもたちが約1,260万人いました。そして、2012年、その数は約660万人まで減少しています。この22年の間に、9,000万人の子どもの命を守ることができました。それは、1日当たり約17,000人の命を助けていることとなります。5歳未満で亡くなる子どもの数は着実に

【図1】 5歳未満児死亡数の推移



減少しています【図1】。

また、5歳未満児死亡率（出生時から満5歳に達する日までに死亡する割合。出生1,000人あたりの死亡数で表す）も減少しています。1990年には、世界の5歳未満児死亡率は1,000人中90人でしたが、2012年には48人まで減少しました。5歳未満児死亡数が減少するスピードも速くなっており、2005年から2012年の減少スピードは、1990年から1995年の減少スピードの約3倍にもなります。

このように、5歳未満児死亡数また死亡率は着実に減少しているものの、いまだに約660万人もの子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっているという現実があります。

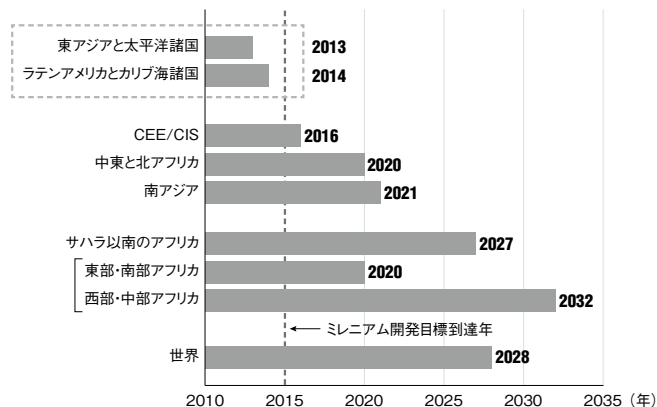
・ ミレニアム開発目標4達成の厳しさ ・

2000年、国連ミレニアム開発会議で、「5歳未満児死亡率を、1990年を基準にして2015年までに3分の2減少させる」という目標（ミレニアム開発目標4=MDG4）をたてました。しかし、現在の5歳未満児死亡率の減少のスピードでは、2015年までの目標達成はむずかしく、目標達成は2028年になるだろうとい

われています。

このMDG4の目標が達成できるかどうか、あるいは、その達成可能時期は地域によって大きく異なります。現在分かっている目標到達可能地域は、東アジアと太平洋諸国、ラテンアメリカとカリブ海諸国の2地域のみです【図2】。

【図2】ミレニアム開発目標4の到達推定年

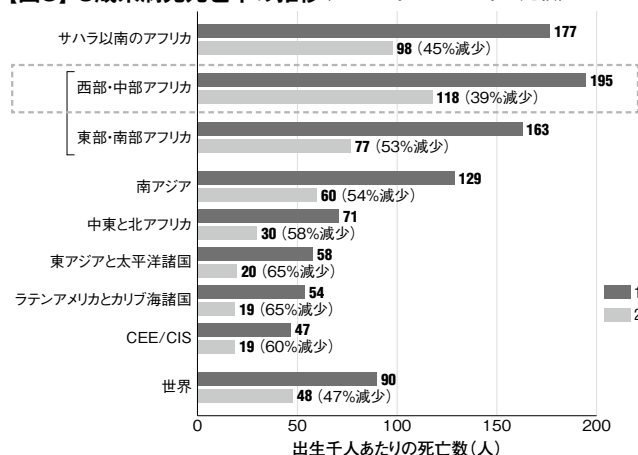


一番厳しい地域：西部・中部アフリカ

MDG4の目標の達成が困難な地域の中でも、サハラ以南のアフリカと南アジアの2地域は、1年間の5歳未満児死亡数が532万人と全体の80%を占めており、この2地域での死亡数の削減がMDG4の目標の達成のための重要な鍵です。南アジアは、1990年と比べ、5歳未満児死亡数を半減させることに成功していますが、サハラ以南のアフリカではその数はあまり減少していません。サハラ以南のアフリカでは10人に1人が5歳になる前に亡くなっており、それは、高所得の国々の平均値の16倍にもなります。2012年、5歳未満児死亡率が100以上の国は16カ国ありましたが、すべてがサハラ以南のアフリカにある国々でした。

サハラ以南のアフリカは、東部・南部アフリカと西部・中部アフリカに分けられますが、各々の目標到達推定年には大きな差があります。目標到達推定年は、東部・南部アフリカは2020年、西部・中部アフリカは2032年で、西部・中部アフリカがMDG4達成が一番厳しい地域です。【図3】にあるように、西部・中部アフリカだけが、5歳未満児死亡率を1990年と比べて

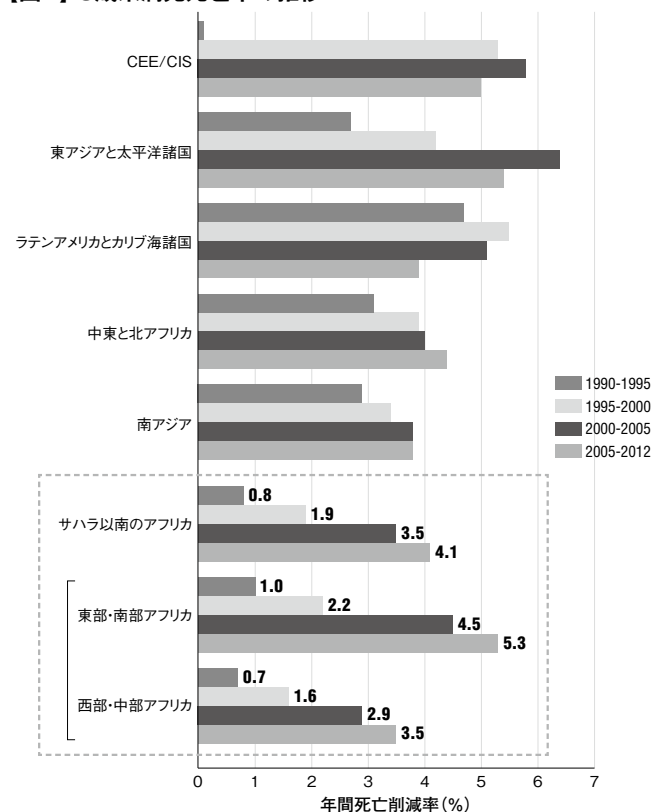
【図3】5歳未満児死亡率の推移（1990年と2012年の比較）



50%以上の削減ができていません。

しかし、まったく進歩がみられないわけではありません。東部・南部アフリカも西部・中部アフリカも5歳未満児死亡削減率は上がり続けています【図4】。

【図4】5歳未満児死亡率の推移



目標達成にむけて

予防可能な原因による子どもの死亡を防ぎ、生存を確かなものにするには、貧困の削減、妊産婦死亡率の減少、教育の普及促進、男女間の平等、環境持続可能性の促進など多方面にわたる取り組みが必要です。

2012年、「あの約束を再び (A Promise Renewed)」という、子どもの生存に関する取り組みが始まりました。現在、176か国が参加し、予防できる妊産婦、新生児、そして子どもの死をなくすために、行動していくことを約束しています。

ミレニアム開発目標の期限まで、あと1年。生まれてくる子どもたちが、健やかに成長し、明るい未来が持てるように、各国のより一層の努力が求められています。

【出典】図1～図4: UNICEF: “2013年度版 子どもの生存を守る:あの約束を再び (COMMITTING TO CHILD SURVIVAL: A PROMISE RENEWED)” (英語) より翻訳、作成

【参考資料】

- UNICEF: “2013年度版 子どもの生存を守る:あの約束を再び (COMMITTING TO CHILD SURVIVAL: A PROMISE RENEWED)” (英語)
- UNICEF, WHO, The World Bank: “LEVELS & TRENDS IN CHILD MORTALITY 2013”
- Lancet Comment: “Renewing the Promise of Survival for Children”, September 13, 2013